

科目名		授業形態	担当教員名	
失語症Ⅰ（病態）		講義	太田 信子・高橋 朋佳・竹田 契一	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
失語症の・医学的背景・定義・症状と症候群・類縁症状・合併症状について講義する。 失語症の患者の評価、訓練、カウンセリング、家族指導を行うために必要な、失語症の・医学的背景・定義・症状と症候群・類縁症状・合併症状の基礎的知識を理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
失語症の患者の評価、訓練、カウンセリング、家族指導を行うために必要な、失語症の・医学的背景・定義・症状と症候群・類縁症状・合併症状の基礎的知識を理解し、これらについて説明することができる。 実際の症状に対し適切な用語を使用することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	失語症の症状：話す			
2	失語症の症状：話す、聴く			
3	失語症の症状：聴く、読む			
4	失語症の症状：読む、書く			
5	失語症の症状：随伴症状			
6	竹田先生特別講義：失語症概論			
7	竹田先生特別講義：脳障害と失語、セラピーに関する考え方、米国家言語治療の現状と動向			
8	失語症患者の心理的側面・精神症状・接し方、失語症の分類			
9	失語症候群：ブローカ失語、ウェルニッケ失語			
10	失語症候群：伝導失語、健忘失語（失名辞失語）			
11	失語症候群：超皮質性失語、全失語、交叉性失語			
12	失語症候群：皮質下性失語、純粋型（純粋語聾、発語失行）			
13	失語症候群：純粋型（純粋失読、純粋失書、失読失書）			
14	失語症候群：失語に伴う失読失書、原発性進行性失語			
15	右半球障害、小児失語症、その他の分類法			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%	講義内容について、理解し、説明できることを評価基準とする。		
レポート				
小テスト	10%	講義の進行に合わせ、その内容が理解できていることを評価基準とする。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準言語聴覚障害学 失語症 第2版	藤田郁代・立石雅子編	医学書院		
脳卒中後のコミュニケーション障害 改訂第2版	竹内愛子・河内十郎編	協同医書出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
臨床力up！動画と音声で学ぶ失語症の症状とアプローチ	森田秋子・春原則子	三輪書店		
自由記載	2年生で失語症Ⅱの教科書指定となります。			
備考				